

社団法人 日本天文学会 2008 年度事業報告書

2008 年度は本会創立百周年・101 年目、社団法人設立後 74 年目にあたる。

I. 日本天文学会創立百周年記念事業

1. 創立 100 周年記念出版事業

日本天文学会の創立 100 周年記念出版事業として日本評論社から、天文学のすべての分野を網羅する教科書 シリーズ「現代の天文学」(全 17 巻)の刊行を目的とした活動を遂行した(VI. 1. 「創立 100 周年記念出版事業編集委員会」の項参照)。

2. 日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」の編纂と出版

日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」を「恒星社厚生閣」から 2008 年 3 月に出版した。

3. 記念式典・祝賀会の開催

2008 年 3 月 23 日(日)に日本天文学会創立百周年記念講演会(学術総合センター—橋記念講堂:参加者約 300 名)および祝賀会(学会会館:出席者 150 名)を開催した。

4. 学会ロゴの公募と決定

一般公募により応募された、799 点の作品の中から学会ロゴのデザインを決定し、2007 年の秋の年会において優秀作品の表彰を行った。

5. 記念切手の発行(JP)

2008 年 3 月 21 日に全国の郵便局等で、特殊切手「日本天文学会創立百周年記念」が発行された。

6. PASJ 半額キャンペーンとフリーアクセス化

掲載料半額キャンペーンと電子版へのフリーアクセスを行った。2008 年 9 月末までの投稿数は 169 編に達し、歴代 2 位の多さとなった。また、発行継続中の 60 巻へのアクセス数が 2008 年 9 月末までに 3 万件、2007 年発行の 59 巻については 9 万件のアクセスがあった。

7. 百周年記念・世界天文年記念巡回展示

日本天文学会の百周年(2008 年)と、国連・ユネスコが定めた世界天文年(2009 年)を記念して、国立科学博物館などと合同で展示を行うことを計画し、その準備を進めた。

8. 土井さんが宇宙に持って行ったメダル

超新星の発見で、日本天文学会の天体発見賞に輝いた日本人宇宙飛行士の土井隆雄さんに、2008 年 3 月のスペースシャトルのフライト STS-123 に伴って、日本天文学会創立 100 周年記念メダルを宇宙に持っていらった。現在は学会事務所に保管中。

9. 百周年記念公開講演会

公開講演会「天文学 これまでの百年、これからの百年—学会創立百周年を記念して—」と題して、通常の年会で行われる 2008 年の春の公開講演会については、いつもよりもやや規模を大きくして、2008 年 3 月 29 日(土)の午前 11 時から、東京・有楽町朝日ホールで開催した。山岡均氏(九州大学)の講演「天文愛好家と天文研究者の 100 年」を第一部とし、第二部として、小平桂一氏(総合研究大学院大学)の講演「z 項から 100 年—「すばる」望遠鏡の時代に—」、井上一氏(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部)の講演「宇宙空間からの天文学の発展」、佐藤勝彦氏(東京大学)の講演「宇宙論の現状と展望」が行われた。

10. 月報のオンライン化

2005 年度より創刊以来の天文月報のオンライン化を進め、2008 年度に全巻の作業を完了した。

II. 出版物の刊行

1. 欧文研究報告(Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第60巻1号~6号、特別増刊号1号、2号の計8回刊行。総論文数178編(うちLetter8編、野辺山宇宙電波観測所25周年8編、VERA15編、すざく35編、あかり13編)、総頁数2,012、発行部数1,950部、偶数月の25日発行、科学研究費補助金(学術定期刊行物。日本学術振興会)510万円を受領
2. 天文月報 : 第101巻1号-12号を刊行。総頁数788、総目次9頁、発行部数3,200部、毎月20日発行
3. 年会予稿集 : 2008年春・秋季年会の2回発行、総頁数622、各850部印刷
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集117頁、600部印刷
5. 春・秋公開講演会 : 冊子春12頁700部・秋8頁500部印刷
6. 天文学会創立百周年記念事業の一環として、日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」(恒星社厚生閣、B5版、341頁、3,300+税)の編纂と出版(2008年3月発行)を行った。また、シリーズ「現代の天文学」全17巻(日本評論社)の発行を行っている。

III. 年会の開催

1. 2008年春季年会(東京都・代々木)

◇ 年 会 : 3月24日(月)~3月27日(木)

国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)の10会場(口頭発表用7、ポスター発表用3)を使って開催された。

- ・ 参加者 : 957名(別にジュニアセッション参加者350名・教育フォーラム参加者約160名)
- ・ 講演数 : 629件(口頭379、ポスター250)他にポストデッドライン講演1件。
- ・ 懇親会 : 3月26日(水)19:00~20:30 国際交流棟レセプションホール 参加者299名

◇ 記者会見 : 3月23日(日)13:00~ 学術総合センター会議室

学会各賞の紹介後、年会講演から3トピックスを選び、8社の報道機関と会見し資料を提供した。これに関連する報道は全国紙6紙に8件の記事として掲載され、地方ニュースでも放映された。インターネットでも多数掲載された。

◇ 特別講演 : 3月24日(月)15:10~

「粒子天文学を切り開く~最高エネルギー宇宙線の観測と展望~」講演者 山本 常夏氏(甲南大学)

◇ ALMA 特別セッション : 3月25日(火)16:15~17:15 参加者約200名

「東アジア ALMA 地域センター構想と共同利用について」世話人 森田 耕一郎・立松 健一・中井 直正氏

◇ 天文教育フォーラム : 3月25日(火)17:30~19:00 参加者約160名

今回の学習指導要領改定に関連して、「今、求められる天文学・天文教育とは」をテーマに開催された。国立天文台 縣 秀彦氏「今日までの学校教育における天文教育の流れ」、さいたま市立上木崎小学校 加藤 明良氏「学校現場で期待される天文コミュニティによる支援」、文部科学省・初等中等教育局・教育課程課 田代直幸氏「教育課程部会の審議の経過説明と今回の改定のねらいー特に天文分野について」、多摩六都科学館 高柳 雄一氏「日本社会から求められる天文学・天文教育とは」の4つの報告をもとに、パネルディスカッションを茨城県立水海道第一高等学校 高橋淳氏の司会で行った。天文教育普及研究会と共催。

◇ ジュニアセッション : 3月25日(火)10:00~12:00、14:00~16:00 参加者350名

第10回ジュニアセッションを開催し、講演数53件(口頭発表45件、ポスターのみの発表は8件)。タイの生徒11名が来日して、5件の発表を行った。天文教育普及研究会・高校生天体観測ネットワークと共催、日本惑星協会の後援を頂いた。

◇ 日本学術会議特別セッション : 3月26日(水)14:00~16:00 参加者約200名

「天文学・宇宙物理学長期計画について」世話人 海部 宣男・佐藤 勝彦・杉山 直氏

◇ 研究奨励賞受賞記念講演 : 3月26日(水)15:30~16:50 参加者約300名

2007年度研究奨励賞受賞者3名の方々に、下記の記念講演をして頂いた。

- 大内 正己氏(カーネギーフェロー)「遠方宇宙における銀河進化と構造形成の研究」
- 高田 昌広氏(東北大学)「重力レンズ効果を用いた観測的宇宙論の研究」
- 野村 英子氏(クイーンズ大学)「星・惑星形成領域の物理・化学構造モデルの構築」

◇ 保育室 : 5家族、子ども7名の利用があった。

◇ 公開講演会 : 3月29日(土)11:00~17:00 有楽町朝日ホール 参加者305名

日本天文学会創立百周年を記念して「天文学 これまでの百年、これからの百年」

- ・ 天文愛好家と天文研究者の100年 : 九州大学・助教 山岡 均氏

- ・ z 項から 100 年—「すばる」望遠鏡の時代—：総合研究大学院大学・学長 小平 桂一氏
- ・宇宙空間からの天文学の発展：宇宙科学研究本部・本部長 井上 一氏
- ・宇宙論の現状と展望：東京大学・教授 佐藤 勝彦氏

2. 2008 年秋季年会（岡山市）

- ◇ 年 会：9 月 11 日（木）～9 月 13 日（土）岡山理科大学（岡山市）の 13 会場（口頭発表用 8、ポスター発表用 5）を使って開催された。
 - ・参加者：842 名
 - ・講演数：670 件（口頭：418、ポスター：252）
 - ・懇親会：9 月 12 日（金）18:30～20:30 岡山ロイヤルホテル 参加者 265 名
- ◇ 記者会見：9 月 10 日（水）14:00～ 岡山理科大学・11 号館 8 階ラウンジ
 年会講演から 3 つのトピックスを選び、8 社の報道機関と会見し資料を提供した。これに関連する報道は、全国紙 4 紙に 4 件の記事として掲載され、地方ニュースでも放映された。インターネットでも多数掲載された。
- ◇ 特別セッション・天文教育フォーラム「世界天文年」：9 月 11 日（木）17:00～18:00 参加者約 180 名
 世界天文年を来年に控え、世界天文年 2009 日本委員会と教育フォーラムの共催で行われた。海部日本委員会委員長の基調報告「世界天文とは」では、IAU のグローバル・イベントの紹介と、日本独特の広範な天文教育・普及組織の協力による日本委員会と企画委員会の活動状況等が報告された。今後重要なのは、研究者個人や研究室の参加であることが強調された。それぞれの担当者から、各種のイベントの内容が報告された。
- ◇ 企画セッション：「中小口径望遠鏡による天文学」9 月 11 日～13 日 参加者各時間 100～130 名
 通常のセッションでは、天文教育、太陽、恒星、星・惑星形成、高密度星、超新星爆発、地上観測装置、など多岐にわたる分野を網羅し、活発な議論が行われた。本セッションでは 45 件の口頭発表、23 件のポスター発表が行われた。世話人代表 嶺重 慎氏
- ◇ 企画セッション：「すざくで探る高エネルギー宇宙」9 月 13 日（土） 参加者約 150 名
 「すざく」衛星打ち上げから 3 年が経過し、優れた成果が数多く発表されている現在、その成果を深め・発展させるため企画された。各講演に活発な議論が行われた。本セッションでは 8 件の基調講演、15 件の口頭発表、7 件のポスター発表が行われた。世話人代表 栗木 久光氏
- ◇ ジュニアセッション：ポスターのみの受付を行い 1 件の発表があった。
- ◇ 林 忠二郎賞受賞記念講演：9 月 12 日（金）17:15～17:45 岡山理科大学・理大ホール 参加者約 200 名
 嶺重 慎氏（京都大学・教授）「ブラックホールとカオスとエディントン限界」（2007 年度）の受賞記念講演が行われた。
- ◇ 保育室：5 家族、子ども 5 名の利用があった。
- ◇ 公開講演会：9 月 14 日（日）13:00～ 岡山理科大学・理大ホール 参加者 109 名
 「岡山からの天文学の来し方・行く末」
 - ・天体発見の歴史と岡山のアマチュア観測家：岡山理科大学・教授 田邊 健茲氏
 - ・ブラックホールを見る：京都大学・教授 嶺重 慎氏
 - ・宇宙の始まりを見る：名古屋大学・教授 杉山 直氏

IV. 各賞の授与

春季通常総会（国立オリンピック記念青少年総合センター）の場で、次の方々へ 2007 年度の各賞を授与した。

1. 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

◎ 天体発見賞（11 氏 18 件）

- ・板垣 公一（いたがき こういち）氏：超新星 2007B の発見、超新星 2007C の発見、超新星 2007af の発見、超新星 2007cd の発見、超新星 2007gi の発見、超新星 2007gw の発見、超新星 2007kj の発見
- ・中村 祐二（なかむら ゆうじ）氏：新星 さそり座 V1280 の発見、新星 さそり座 V1281 の発見
- ・土井 隆雄（どい たかお）氏：超新星 2007aa の発見
- ・多胡 昭彦（たご あきひこ）氏：新星 はくちょう座 V2467 の発見
- ・西村 栄男（にしむら ひでお）氏：新星 へびつかい座 V2615 の発見
- ・櫻井 幸夫（さくらい ゆきお）氏：新星 いて座 V5558 の発見

- ・安部 裕史 (あべ ひろし) 氏：新星 こぎつね座 V458 の発見
- ・内藤 博之 (ないとう ひろゆき) 氏：超新星 2007ig の発見
- ・市村 義美 (いちむら よしみ) 氏：超新星 2007ss の発見
- ・金田 宏 (かねだ ひろし) 氏：新星 こぎつね座 V459 の発見
- ・広瀬 洋治 (ひろせ ようじ) 氏：超新星 2007uy の発見

◎ 天体発見功労賞 (4氏5件)

- ・櫻井 幸夫 (さくらい ゆきお) 氏：新星 さそり座 V1280 の独立発見
- ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏：新星 さそり座 V1281 の独立発見
- ・中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏：新星 へびつかい座 V2615 の独立発見
- ・多胡 昭彦 (たご あきひこ) 氏：新星 へびつかい座 V2615 の独立発見、
新星 こぎつね座 V459 の独立発見

◎ 天文功労賞 (5氏4件)

(長期的な業績)

- ・浦田 武 (うらた たけし) 氏：太陽系小天体の発見と軌道計算
(短期的な業績)

- ・内那 政憲 (うちな まさのり) 氏：日本初の SOHO 彗星の検出
- ・西山 浩一 (にしやま こういち) 氏、椛島 富士夫 (かばしま ふじお) 氏：
銀河系外の新星を多数検出
- ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏：きわめて特異な星の最期の姿を検出

2. 研究奨励賞 (3氏3件)

- ・大内 正己 (おおうち まさみ) 氏：カーネギーフェロー
研究テーマ：「遠方宇宙における銀河進化と構造形成の研究」
- ・高田 昌広 (たかだ まさひろ) 氏：東北大学大学院・助教
研究テーマ：「重力レンズ効果を用いた観測的宇宙論の研究」
- ・野村 英子 (のむら ひでこ) 氏：クイーンズ大学・研究員
研究テーマ：「星・惑星形成領域の物理・化学構造モデルの構築」

3. 林忠四郎賞・欧文研究報告論文賞

◎ 林 忠四郎賞 (1件1氏)

- ・嶺重 慎 (みねしげ しん) 氏：京都大学基礎物理学研究所・教授
研究の表題：「ブラックホール降着流理論と観測による検証」

◎ 欧文研究報告論文賞 (2編)

- ・論文：Lyman Break Galaxies at $z \sim 5$: Luminosity Function
PASJ, Vol. 55(2003), pp. 415–432
著者：Iwata, I., K. Ohta, N. Tamura, M. Ando, S. Wada, C. Watanabe, M. Akiyama, & K. Aoki
- ・論文：The Environment of Passive Spiral Galaxies in the SDSS
PASJ, Vol. 55(2003), pp. 757–770
著者：Goto, T., S. Okamura, M. Sekiguchi, M. Bernardi, J. Brinkmann,
P. L. Gomez, M. Harvanek, S. J. Kleinman, J. Krzesinski, D. Long, J. Loveday, C. J. Miller,
E. H. Neilsen, P. R. Newman, A. Nitta, R. K. Sheth, S. A. Snedden, & C. Yamauchi

V. 総会・評議員会および理事会

1. 総 会

2008年春季総会

日 時：2008年3月26日(水) 15:30～16:45

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟4階 F会場 (東京・代々木)

議 長：土佐 誠氏 (天文月報2008年6月号 p367 議事録参照)

2008年度秋季総会

日 時：2008年9月12日(金) 16:00～17:10

場 所：岡山理科大学・理大ホール (岡山市)

議長：土佐 誠氏 (天文月報 2008 年 12 月号 p783 議事録参照)

2. 評議員会

日時：2008 年 1 月 26 日 (土) 13:00～16:50

場所：東京八重洲ホール 8 階会議室(東京・八重洲)

議長：井上 一氏 (天文月報 2008 年 4 月号 p241 議事録参照)

日時：2008 年 3 月 26 日 (水) 12:00～13:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟 1 階 会議室 (東京・代々木)

議長：須藤 靖氏 (天文月報 2008 年 6 月号 p365 議事録参照)

日時：2008 年 7 月 5 日 (土) 13:00～16:30

場所：東京大学理学部 4 号館 1320 号室(東京・本郷)

議長：杉山 直氏 (天文月報 2008 年 9 月号 p549 議事録参照)

日時：2008 年 9 月 12 日 (金) 12:30～13:30

場所：岡山理科大学・25 号館 4 階会議室 (岡山市)

議長：観山 正見氏 (天文月報 2008 年 12 月号 p781 議事録参照)

3. 理事会

日時：2008 年 1 月 12 日 (土) 13:00～16:45

場所：東京八重洲ホール地下 1 階 A 会議室(東京・八重洲)

議長：土佐 誠氏 (天文月報 2008 年 4 月号 p228 議事録参照)

日時：2007 年 3 月 25 日 (火) 12:00～13:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟 1 階 会議室 (東京・代々木)

議長：土佐 誠氏 (天文月報 2008 年 6 月号 p364 議事録参照)

日時：2008 年 6 月 21 日 (土) 13:00～15:30

場所：東京八重洲ホール 412 号室(東京・八重洲)

議長：土佐 誠氏 (天文月報 2008 年 9 月号 p546 議事録参照)

日時：2008 年 9 月 11 日 (木) 12:30～13:30

場所：岡山理科大学・25 号館 4 階会議室 (岡山市)

議長：土佐 誠氏 (天文月報 2008 年 12 月号 p780 議事録参照)

VI. 委員会、選挙、共催・後援等、民間の賞・助成、その他

1. 委員会関係

- ◇ 欧文研究報告編集委員会：2008 年度は、196 編の論文が投稿された。通常号を 6 回、増刊特集号を 2 回、合計 8 回発行し、掲載論文総数 178 編、総頁数は 2,012 頁となった。特集として、通常号では「野辺山観測所 25 周年」と「VERA」、増刊特集号では「すざく」と「あかり」の 2 衛星の論文を掲載した。また、学会創立 100 周年事業の一環として、論文掲載料の半額キャンペーンおよび電子版のオープンアクセスを実施し、電子版へのアクセス数は年間 427,473 件あった。
- ◇ 天文月報編集委員会：第 101 巻 1 号～12 号、総ページ数 788、総目次 9 ページ、発行部数 3200 部、毎月 20 日発行、バックナンバー全巻電子化およびホームページへの掲載終了。
- ◇ 年会実行委員会：2008 年度日本天文学会春季年会 (3 月 24～27 日・東京・国立オリンピック記念青少年総合センター) および秋季年会 (9 月 11～13 日・岡山理科大学) を開催した。準備にあたっては、1 月 7 日(月)および 7 月 10 日(木)に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。
- ◇ 天文教育委員会：年会時の公開講演会と天文教育フォーラム (共催) を開催した。特に春の公開講演会では、副題に「日本天文学会創立 100 周年を記念して」と銘うって規模を拡大して実施した。創立 100 周年記念メダルを土井宇宙飛行士の公式フライトキットとして依頼し、宇宙飛行を実現した。

2009年世界天文年と指定管理者制度に伴うアピールの調整に対応した。

- ◇ 選挙管理委員会：今期は、会員及び役員等による選挙は行われなかった。
- ◇ 林 忠四郎賞選考委員会：林賞に1名の受賞候補者を選考し、欧文研究報告論文賞は本年度2編の論文を候補として、評議員会に推薦することとした。
- ◇ 研究奨励賞選考委員会：2008年度(第20回)の研究奨励賞受賞候補者3名を選考し、評議員会に推薦することとした。
- ◇ 天体発見賞選考委員会：2008年度の天体発見賞候補者及び天体発見功労賞候補者、天文功労賞受賞候補者を選考し、評議員会に推薦した。
- ◇ 内地留学奨学金選考委員会：2009年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行い、応募者から1名の奨学生(22万円の支給)を決定した(天文月報2009年1月号参照)。尚、2008年度は1名の奨学生に23万円の支給を行った。
- ◇ 早川幸男基金選考委員会：渡航旅費補助者の募集を年4回 行い、応募者62名のうち採択者27名(内辞退者2名)に325万円を援助した(昨年分1名3万円を含む)。今年は前年に比べ応募者数が約20名多かったこと、前年、辞退者が出て、予定援助額に達しなかったこと等を考慮し、今年は、通常より多くの援助となった。前年、了承して頂いた早川基金内規の改定をもとに、具体的な基金運用を検討し、第62回の応募から適用した。新基金運用では、新たに滞在費の援助枠ができ、第62、63回の2期でこの枠に6名の応募があった。最後に、佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いた。ここに感謝いたします。
- ◇ ネットワーク委員会：事務所内計算機を常に適正な状態に保守し、重要データ等のバックアップを適切に行った。また、懸案事項であった学会ホームページの英語版の作成作業に着手し、9月より初期版の公開を開始し、世界に向けての日本天文学会の活動内容の周知に努めた。
- ◇ 天文教材委員会：2009年(世界天文年)の科学技術週間に国内の中小高校、科学館に配布できるよう文部科学省科学技術・学術政策局や国立天文台と協力して「(仮称)一家に1枚天体望遠鏡400年」ポスターの監修を担当している。
- ◇ 創立100周年記念出版事業編集委員会：各巻の責任編集体制のもとで、2008年3月までに全巻を刊行することを目標に編集作業を進めたが、残念ながらその目標を達成することが出来なかった。現在までに刊行された、あるいは刊行予定のものは以下の14巻である(括弧内は刊行年/月)。

- 第1巻「人類の住む宇宙」(07/1; 08/5 4刷)
- 第5巻「銀河II－銀河系」(07/4; 08/6 2刷)
- 第8巻「ブラックホールと高エネルギー現象」(07/6; 08/6 2刷)
- 第15巻「宇宙の観測I－光・赤外天文学」(07/7)
- 第14巻「シミュレーション天文学」(07/8)
- 第3巻「宇宙論II－宇宙の進化」(07/9; 08/6 2刷)、
- 第4巻「銀河I－銀河と宇宙の階層構造」(07/10)
- 第2巻「宇宙論I－宇宙のはじまり」(08/1; 08/2 2刷)
- 第9巻「太陽系と惑星」(08/2)
- 第12巻「天体物理学の基礎II」(08/5)
- 第6巻「星間物質と星形成」(08/9)
- 第17巻「宇宙の観測III－高エネルギー天文学」(08/10)
- 第13巻「天体の位置と運動」(09/1 予定)
- 第10巻「太陽」(09/2 予定)

本原稿執筆時点で刊行の日時を確定できていないものは以下の3巻である。

- 第7巻「恒星」
- 第11巻「天体物理学の基礎I」
- 第16巻「宇宙の観測II－電波天文学」

全巻をできる限り早急に刊行することは、寄付者および刊行を心待ちにしている読者に対する天文学会の責任と考える。執筆者、編集者の真剣な御協力をお願いする。

- ◇ ジュニアセッション実行委員会：2008年度日本天文学会春季年会において、第10回ジュニアセッションを開催した。3月25日に行われた口頭発表では45件の発表があり、ポスターのみの発表の8件を含めると、合計53件の発表があった。発表件数が多かったために1件あたりの発表時間は3分と短くなってしまったが、口頭発表についてはポスターでも発表をしてもらった。1時間のポスターセッションを2回行った。タイからも生徒が来日して英語で発表がなされた。2008年度日本天文学会秋季

年会においては、ポスター発表のみのジュニアセッションを行い、地元の高校生による1件の発表があった。

- ◇ 百年史編纂委員会：百年史編纂委員会は2005年3月に発足以来、日本天文学会創立百周年に当たる2008年に「日本天文学会百年史」を出版すべく努力して来たが、同年3月の日本天文学会百周年記念祝賀会に合わせて出版することが出来た。書名は「日本の天文学の百年」、出版社は「恒星社厚生閣」、ハードカバー、B5判、総ページ378ページ（本文341ページ、巻頭カラーグラビア24ページ）で、定価は税込みで3465円である。なお、天文学会の会員全員に本百年史を無料で配布した。百年史編纂委員会は、無事その任務を完了し、2008年度をもって解散することになった。
- ◇ 男女共同参画委員会：天文学会は男女共同参画学協会連絡会に加盟し、シンポジウム等各種事業に参画した。「女子中高校生夏の学校2008」には複数の委員を派遣し、天文学会ブースでキャリア相談や最新の天文学成果を映像で説明、簡易分光器の工作などを行い、初の試みとして夜間の天体観望会も実施した。また、女性天文学者有志の会と連携し、研究者を日本国内の生涯学習施設や学校等へ派遣、理科や自然の面白さを伝える事業を継続して実施している。
- ◇ 衛星設計コンテスト推進委員会：第16回衛星設計コンテストに参加し（共催としては2回目）、東京大学と総合研究大学院大学の合同チーム（代表：津村 耕司氏）の「黄道面脱出型天文観測探査機 high-Z」に、日本天文学会賞を贈った。

2. 学術交流費

賛助会員会費を使って、大学院生等の年会における研究成果発表の際に、旅費の一部補助を行う制度である。2008年度の春季年会は国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都・代々木）、秋季年会は岡山理科大学（岡山市）で開催された。本年度は発表者72名に対して1,186千円の旅費補助を行った。

3. 共催・後援等

国際・国内シンポジウムなどの共催2件、後援11件、協賛8件を行った。

4. 民間の賞及び研究助成

各種の賞および研究助成のお知らせを、天文月報・学会ホームページ(20件)で掲載した。研究助成2件の推薦を行い1件が採択された。賞に対する推薦については行われず、次年度からの学会としての対応について現在検討中である。

5. その他

会員からのPASJ 寄贈79部のうち43部を発展途上国及びPASJ 購入困難な国に寄贈（26ヶ国）している。

会 員 数

2008年12月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2007年12月31日	1,695(355)	1,213	40	36	2,984
入 会	112(99)	58	0	1	171
退 会	95(38)	65	2	1	163
移 籍 (増)	5(4)	23			
移 籍 (減)	23(4)	5			
正会員へ(学生減)	(109)				
2008年12月31日	1,694(307)	1,224	38	36	2,992

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

定款第12条に基づき、1月26日の評議員会議決を経て、正会員22名（内学生4名）、準会員12名が2006年度からの会費未納のため除名された。

(文責 庶務理事：高田 唯史)